

## 高年齢労働者における身体的負荷の評価に関する研究

### 【研究概要】

日本では少子高齢化の進行に伴い、60歳以上の就業者が増加する中、高齢労働者における労働災害も増加傾向である。この現状を踏まえ、作業に伴う身体的負荷を労働災害の一因と捉え、その評価基準や指針を確立することは、今後の労働災害防止対策に向けた重要な課題であると考えられる。

本研究では、身体活動の強度と総量を示す「METs (代謝当量)」を用いて、高齢労働者が仕事に受ける身体的負荷を定量的に把握する。さらに、その負荷と体力・健康状態との関連性を明らかにすることで、年齢に応じた適切な作業条件の在り方を検討する。得られた知見は、高齢労働者の安全確保と持続的な就労を支える具体的な指針の策定に活用し、労働災害の防止につなげることを目指す。

